使用説明書
S2 Swing
panthera
panthera

## 内容



### 使用目的

パンテーラは、毎日の軽快な操作を考え、快適に、しかも人間工学的に良い姿勢で座れるように設計された車椅子です。
車に積んだり降ろしたりが容易にできます。
車体は現在市場で利用可能なもののなかで最も軽く, 最小の外寸法です。
車体を車に積み込む時に、釣り合いが取れて持ちやすいように、フレームのデザインにもこだわっています。
ユーザーおよび専門家の皆様が、パンテーラの特徴を理解し、それを生かした快適な座り方で, 最大限の運転能力を引き出し、最も操作しやすい位置のバランスになるよう車椅子の調整をしていただくことが重要です。
そのためにこの使用説明書を添付いたします。

**この説明書の９～１０ページにはあなたの安全に関する重要な情報が書かれていますので、必ずお読みください。**

panthera S2 swing



Instructions for use S2 Swing
panthera

### 注文の車椅子が間違いなく届けられたか、以下の点をチェックしてください。

- 車椅子の幅：座席の外寸を測定してください。
  座幅は36、39、42、45cmのいずれかです。
- バックレストの高さ：バックレストパイプを測定してください。
  注文されたバックレストの寸法より0.5cm短くなっています。
  例えば、高さ30cmを注文した場合、パイプの長さは29.5cmです。
- 部品：注文したすべてのパーツが入っていることを確認してください。

### 機械部品をチェックしてください。

- 後輪車軸がアクセルハウジング（軸受）にスムーズに出入りするか？
- 後輪を差し込んだ後に、ハブの中心のボタンが外に戻るか？
- 四輪のすべてがフロアに設置しているか？
- キャスタフォークが滑らかに回転するか？
- バックレストが前に容易に折りたためるか？

以上のチェックで異常が見つかりましたら、車椅子をご使用になる前に取扱店にご連絡ください。

## 組み立てと分解

車に積み込む時は、後輪を外し、バックレストを前に折たたんでください。
駆動輪の取り外しは、ハブの中心のボタンを押しながら駆動輪を引っ張ります。
取り付けは、ボタンを押しながら、軸受けの穴に車軸を差し込みます。車輪を奥まで差し込み, 外に引っ張って駆動輪が固定されているか、ボタンが元に戻るか、確認してください。(図１参照)
バックレストのたたみ方は、バックレストのロック装置にあるワイヤを引っ張ってバックレストを前にたたみます。(図５参照)
バックレストの戻し方は、バックレストを引き上げ、最後まで引っ張ると自動的にロックされます。

図１. ハブの中心にあるボタンの確認

レッグサポートは、内外両側に回転でき、完全に取り外すこともできます。
取り外し方は、内側のノブを押し、レッグサポートを上にあげると外れます。(図２参照)
スウィングの方法は、ノブを押しレッグサポートを回します。
戻し方は、レッグサポートパイプの上部を本体フレームの受け穴に入れ、レッグサポートが固定される位置まで回してください。

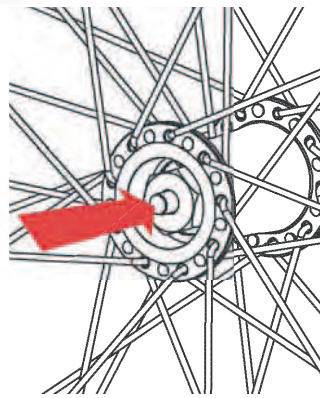
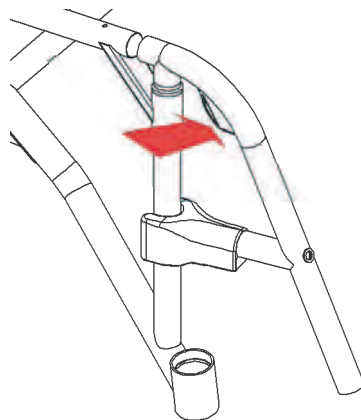



図２. レッグサポートを解除するためのノブ



Instructions for use S2 Swing
panthera

## 調整・調節

あなた自身の体に合った姿勢で座り、最大限の運転能力を引き出すためには、下記の順序で正しく調整・調節することが重要です。
まず最初に、座る姿勢に椅子を合わせることです。その後に最も操作しやすい位置のバランスを調整します。
座る姿勢を変えたときは、それに合わせてバランスも調整しなおさなければなりません。
次の順序に従って進めてください。

1) 座面シートの張り
2) フットレストの高さ
3) レッグベルトの張り
4) バックレストの角度
5) バックレストシートの張り
6) 重心位置 (バランス)
7) ブレーキの位置

図３. 座面シートの張り調節

### 1) 座面シートの張り (図３参照)

シートの後方は、座面下のマジックテープの付いたベルトを締めたり緩めたりして調節します。
これにより座面高を約2cmの範囲で調節できます。

### 2) フットレストの高さ (図４参照)

フットレストは上下に調整することができます。
フレームの正面のフットレストを支えている２つのねじを取り外します。ねじを緩めるには、３mmの六角レンチを使います。
19mmスパナをパイプに当てハンマーで叩きながら樹脂製キャップ (A) を押し下げてください。
フットレストの高さは５段階 (20mm間隔) に調整できます。
足裏がフットレストに付くと同時に、腿が座面 (クッション) に付く高さに調節してください。

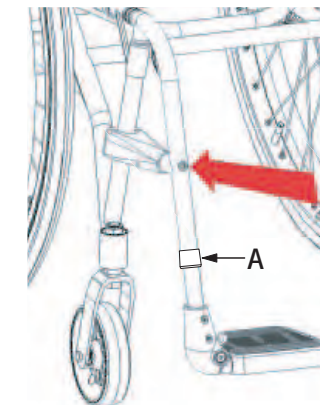



図４. フットレストの高さ調節

### 3）ヒールストラップの張り

張りを調節が可能で、フットレストに乗せる足の前後位置が変えられます。
必要に応じて調整してください。

### 4）バックレストの角度

最初に、ロックピンがロックしないように, バックレストエキセントリック（3）を回し、それから、角度調整のためのねじ（4）（5）を調整して角度を合わせます。

手順（図５参照）

1.ワイヤ（1）を引き、バックレストを折りたたんでロック機能を解除してください。
2.ロックねじ（2）を緩め、5mm六角レンチで数回まわしねじをはずします。
3.ロックピンがフリーになるように（3）を19mmスパナで回してください。左右同様にします。
4.13mmスパナでロックナット（4）を緩め、5mm六角レンチで調整ねじ（5）を調節することができます。調整ねじを緩めるとバックレストは前に傾き、締め込むと後に傾きます。バックレストパイプが反らないように左右を等しく調整しなければなりません。バックレストを起こし、両方の調整ねじがフレームに付いているかどうかチェックします。適切な角度を見つけて, ロックナットを締めてください。
5.ロック機能を戻すには、バックレストを起こし、ロックピンがロックポジションに飛び出すようにロックエクセントリックを回わします。
ロックねじをしっかり締めてください。左右同様にします。

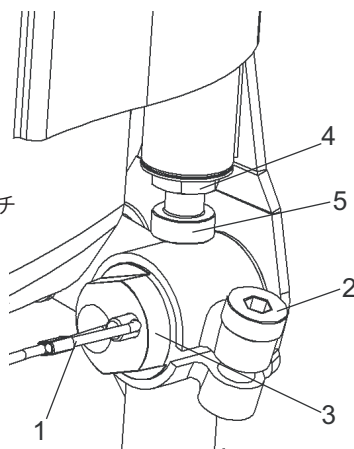



図５. バックロック機構



Instructions for use S2 Swing
panthera

### 5）バックレストシートの張り

背シート裏のマジックテープの付いたベルトを締めたり緩めたりすることにより、シートの張りが調整できます。バックレストには座面シートの裏にマジックテープで固定できるフラップ（バックレスト下端部のシート）が付いており、これを前後に動かすことで、背シートの下部分（シートバケット）を最もよい張り状態にすることができます。この背シートを調整することで、背中の形に合った背中の下部を心地よく支える位置が決められます。最初に、ベルトを緩め、椅子の奥深くお尻を入れてください。そして、しっかりサポートされるようにベルトを締めます。もし奥深く座れていないという感じがしたら、それは背シートのフラップが前方に固定されているからです。フラップを緩めて後ろにずらします。

Instructions for use S2 Swing
panthera

## 6）重心位置（バランス）

後輪を前後に移動させることで、あなたの望む位置に車椅子のバランスを調整することができます。後輪に重量がかかるほど、車椅子のバランスは前方が軽くなります。操作が楽になり、縁石や階段があるときに、前輪を上げやすくなります。
ただし、バランスが後ろ過ぎると後ろに転倒する危険が生じますので、注意が必要です。
体幹と操作能力に見合ったバランス位置を決めるためには、転倒の危険のない最適な条件が満たされるまで十分に時間をかけて試してみることが重要です。バランスを調整した後に乗る場合は、必ず誰かが車椅子の後方に立つことを忘れないでください。
完璧なテストをしてもなおバランスに不安を感じるときは、転倒防止装置（オプション品）を取り付けてください。装置を付ければ転倒を防止することができますし、不要になれば簡単に取り外せます。

調整；

1.後輪を取り外してください。
2.左右のボルト（6）を15mmスパナで緩めてください。
3.ホイールアタッチメント（7）の位置は水平のフレーム管に沿って前後に動かせます。左右同じにしてください。左右均等かどうか確認するために、垂直なフレーム管の前部分とホイールアタッチメントの後ろ部分の間の距離（図6参照）を測ります。
4.ホイールアタッチメントを締めます。左右のボルト（6）を12Nm～14Nmのトルクで締めてください。

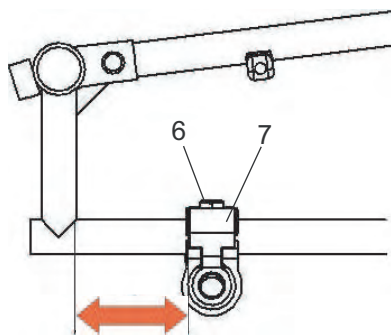



図6．重心位置（バランス）

## 7）ワンハンドブレーキ（付属部品）

ハイブレーキと同じようにシート管の下に取り付けられています。
図7のように、ブレーキはフレームの両端に均等に取り付けてください。

注意：空気圧が低いときや、タイヤが摩耗しているとき、タイヤのタイプを変更したときは、ブレーキのかかり具合も変わります。忘れずにチェックしてください。

図7．ワンハンドブレーキ

### ニューハイブレーキ

ブレーキは、3～4mmタイヤに食い込んでロックされるように調整します。微調整はロッキングアーム調整を回してください（図8参照）。
回す方向によりブレーキがタイヤに食い込む深さが変えられます。
大きく調整するときは、5mmレンチでブレーキ内側のボルトを緩めると、ブレーキが前後に動きます。最もよい位置でクランプを締めてください。

注意：クランプ（シートの下）を動かすときに、内側のボルトを緩めてください。

図8．ニューハイブレーキ

## 転倒防止装置（付属部品）

転倒防止装置をのばして（図9参照）、4つの穴から地面に届く適切な位置を選んでください。
転倒防止装置は下方向に押し下げ、回転させてフレームの下に畳み込むことができます。再度引き出すときは、ロックされていることを確かめてください。
キャスタ上げの練習するときは、転倒防止装置をなるべく短く取り付けてください。

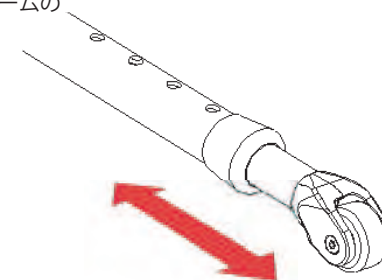



図9．転倒防止装置（付属部品）

## メンテナンスと手入れ

パンテーラは実際にはメンテナンスがいらないように作られています。
ただし、定期的に点検していただきたい個所が２、３あります。
（もし砂や海水等の影響を受けるような環境で使用する場合は、最低月に１度は掃除と点検をしなければなりません）

## 毎月おこなった方が良いこと

・車体はカーシャンプーまたは食器洗い洗剤および湿った布できれいにしてください。
汚れがひどいときは、脱脂剤（ベンジンなど）を使用します。
掃除の後は潤滑油（CRC5-56など）を可動部分すべてに注油してください。
ただし、ベアリング部にはグリースなど専用のオイルを使い、CRC5-56は用いないでください。
・キャスタ車輪とフォークの間をきれいにします。
髪の毛やほこりがつきやすくベアリングを傷める心配があります。
10mmスパナでボルトをおさえながら、10mmスパナでナットをゆるめます。
ボルト、続いて車輪をはずします。
キャスタ車輪とフォークの間のスペーサをきれいにし、ベアリング部を布切れで拭き、最後に組み立てます。
・駆動輪の車軸に注油してください。
駆動輪をはずし、車軸の上に数滴注油します。
雨の日に外出したとき、砂や海水の中、雪解け道を走行したとき、普段車輪を取り外すことがない場合は、注油の回数を多くしなければなりません。
・空気圧について
タイヤの空気は自転車用ポンプで入れることができます。自転車用ポンプを米式にセットして下さい。（自転車用のポンプは米式と英式兼用が一般的です。）
自動車のバルブも米式なので、ガソリンスタンドでも容易に空気を入れることができます。
800kPa（≒8kg/㎠）まで入れることができます。（通常は650～750kPa入れてください。）
・全てのねじとナットが確実に締まっているかどうか点検してください。
・その他、異常な箇所がないか点検してください。
もし損傷に気づいたら、すぐに取扱店にご連絡ください。



Instructions for use S2 Swing
panthera

## 半年に１度しなければいけないこと

・ブレーキの接合部に数滴注油してください。
・バックレストの接合部の軸部に注油してください。
10mmスパナでボルトを固定し、10mmスパナでナットをはずします。
・座面シート、背シート、クッションカバーは必要なら40℃くらいの湯で洗ってください。

## 保証期間と耐用年数

パンテーラの耐用年数は、使用頻度とメンテナンスの状態によります。
保証期間：車体（シャーシフレーム）については７年間。その他の部分は１年。ただしタイヤ等の消耗品は除きます。
耐荷重：100kg(36、39、42㎝幅)、125kg（45㎝幅）

## 安全にご使用いただくために

パンテーラは可能な限り楽に操作できるように開発されていますから、あなたの動きに即座に反応して動きます。転倒防止装置がついてない場合に、もし操作 を誤れば転倒してしまう可能性もあります。車椅子というのは、元来転倒する可能性をもっているものですから、転倒が起こるかもしれない状況をすべて予測 し、警告を出すことはとうていできません。大切なのは、ご自身のパンテーラをどんどん使って試していただき、操作テクニックを磨いていただくことです。
もし車椅子の操作テクニックについて疑問、質問があれば車椅子の処方をした人かセラピストにご連絡ください。それができないときは、パンテーラをご購入 いただいた取扱店までお気軽にお問い合わせください。パンテーラ社は日常使用の車椅子に関する100年以上の経験を基にお答え致します。
安全にご使用いただくために、重要なポイントについて以下にまとめました。

### バランスと転倒について

＊ 車椅子が転倒しやすいかどうかを決定する重要な要素は、バックレストの位置と角度、背シートの調整です。調整をしたあとで、実際に車椅子のバランスが安心できるものかどうかチェックしてください。もし不安定だと感じたら、転倒防止装置を付けるか、後輪を後ろに移動してください。
＊ 転倒につながる恐れのあるその他の要素は、バックレストにバッグをかける時、バックレストによりかかったり背伸びをする時、消耗したタイヤをそのまま使う時、タイヤの空気圧が減ったままの状態で使用する時、路面の突然の変化、これらは転倒につながるリスクのある要素です。

注意！車椅子の調整の仕方によっては傾斜面で転倒することがあります。車椅子が不安定だと感じたら、転倒防止装置を付けるか、後輪の位置を後ろに下げてください。

### ブレーキ

＊ ハイブレーキの場合は，ハンドリムを操作する時に指が当たって怪我をしないように充分気をつけてください。
＊ ハイブレーキの場合、横移乗する際にはブレーキの上に座ったり，引っ掛かったりしないように注意をしてください。
＊ シングルハンドブレーキの場合で、立ち上がることができる人は、ふくらはぎがブレーキに当たりブレーキが解除されないよう充分に気をつけてください。
＊ 空気の抜けたタイヤや消耗したタイヤではブレーキが効きにくいことを知っておいてください。
＊ タイヤのタイプを変更する場合には、寸法が異なる場合もありますから、必ずブレーキのチェックをしてください。
＊ ブレーキは停車時に使用するもので、動いている最中にかけるものではありません。





### レッグサポート

＊ 足を置いたときにレッグサポートが正しくロックされていることを確かめてください。

### 座位について

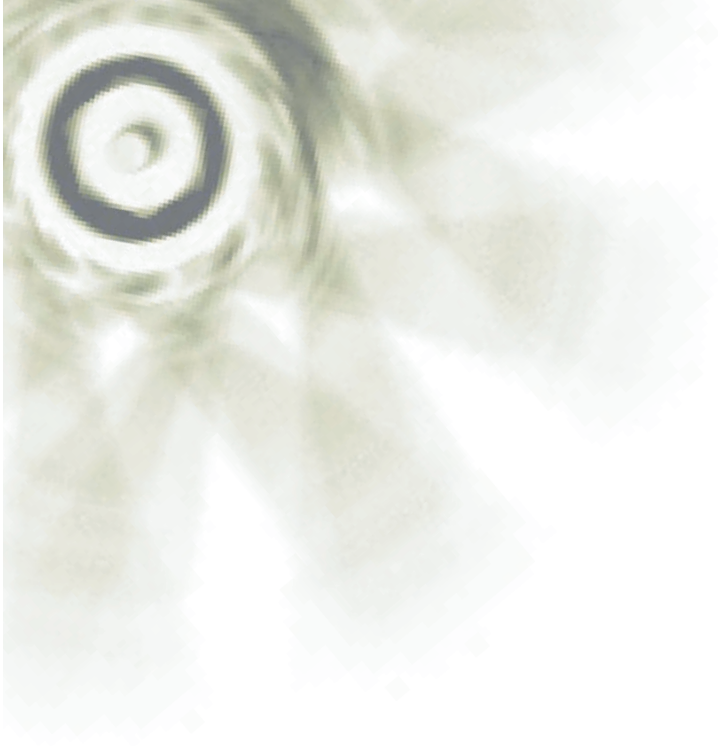
＊ 間違った座位は褥瘡の原因になることもあります。正しい座位がとれているかどうか自信がなければ、すぐにセラピストにご相談ください。
＊ サイドガードが大腿部を強く圧迫していないかチェックしてください。
強く圧迫しているときは、座幅が狭すぎるか、サイドガードの調整が必要になります。
このことも褥瘡を引き起こす原因になります。
＊ シートは必ずクッションを使用するように設計されています。

### 操作について

＊ フットレストの最下部と地表の距離が40mm以下の場合、フットレストが地表の隆起したところにぶつかり、体が前に投げ出されることがあります。
＊ もし転倒防止装置を出して段差を越える場合、転倒防止装置が段差にぶつかり、体が前に投げ出される危険性があります。もし自信がなければ、そのつど転倒防止装置をしまい，補助を受けて安全に段差越えや降りたりすることが大切です。

### 移乗／持ち上げ

＊ パンテーラは軽量なので、ブレーキがかかった状態で横移乗しようとすると、車椅子が横方向に動いてしまうことがあります。不安を感じるときは、セラピストと一緒に練習してください。
＊ 車椅子を持ち上げる場合には、必ずフレームを持って持ち上げてください。(図１０参照)
バックレストやハンドリム、駆動輪などフレーム以外の部分を持って持ち上げるのは絶対にやめてください。

図１０．持ち上げるポイント

〒311-4164 茨城県水戸市谷津町細田1-8
TEL.029-257-2522　FAX.029-257-2348
0120-196013
URL　http://www.panthera-japan.jp
e-mail　info@panthera-japan.jp

■取扱店記入欄

※製品の仕様及びデザインは性能改善のため、予告なく変更することがあります。

090204